

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	河井家文書と日本政治（河井重蔵・弥八を中心に）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	前山 亮吉
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森山 優
		所属・職名	千葉大学大学院国際学術研究院・教授	氏名	見城 悌治
		所属・職名	静岡県近代史研究会・会員等	氏名	北原 勤ほか2名
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	前山 亮吉

講演題目	河井重蔵関係調査、『河井弥八日記』1939年より
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究は、掛川市に残されている河井家文書を手がかりに、明治期と戦後の日本政治を中央・地方の両側面から多角的に照射し、政治史・地方史における新境地を開拓するものである。</p> <p>本年度は、重蔵、弥八ともに多くの成果を得たが、</p> <ul style="list-style-type: none"> 重蔵関係では、①酪農学園大学（北海道江別市）附属図書館所蔵の黒澤西蔵資料中の田中正造資料調査（9月）、②「田中正造への静岡からの書簡-河井重蔵と大村和吉郎の書簡」『静岡県近代史研究』47、2022年10月、の刊行、③掛川市立大東図書館保管の河井重蔵関係書簡の調査（2023年2月）があげられる <ul style="list-style-type: none"> ①は静岡民友新聞記事（正造の演説記事 重蔵や大村和吉郎の記載あり）静岡県における演説草稿関係3点、正造宛て書簡2通（旅館から）年賀状3通（重蔵あり）が確認され、1899（明治32）年、正造が静岡訪問時の日記、手帳資料の存在も明らかとなった。今後はこれらの内容を精査することで研究の深化が期待できる ②は2016年に実施した佐野市郷土博物館調査で撮影した田中正造書簡（島田宗三が保管していたもの）を復刻したものである ③1890年代から1910年代の史料を撮影した。撮影枚数は三千点を超え、今後の分析が期待される 弥八関係では、1939年の弥八日記の校訂を開始した。日記に加え、手帳にも詳細な記述があるため、復刻することとした。科研費の他に二回の読み合わせを実施し、現在5月中旬まで作業が進展している。内容は、貴族院の活動が子細に記されており、きわめて貴重である。来年度の刊行が期待される